日本薬学会

第２回全国学生ワークショップ

「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」

報告書

平成 25 年 2 月

公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan

参加者集合写真

開会のあいさつ

目　　次

ページ

第２回全国学生ワークショップの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

プロダクト抜粋　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

ワークショップ参加者および班分け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23

「ワークショップ開催の経緯」説明原稿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

セッション報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

第一部「６年間の大学生活で一番印象に残っている場面」　・・・・・・・・・・・・・　30

作業説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

プロダクト発表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33

第二部「６年制薬学教育を通して成長したこと」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

作業説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

グループ報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

第三部「６年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」・・　71

作業説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72

グループ報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　75

第四部「６年制薬学教育課程を卒業する時に
どのような能力を身につけていたいですか」　・・・・・・・・　98

作業説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　99

グループ報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101

「薬剤師として求められる基本的な資質（案)」に関するアンケート　・・・　126

第五部「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」・・・・・・・133

作業説明　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135

グループ報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・137

特別プログラム「一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ」 ・・・・・・・・・・ 169

作業説明 ・・・・・・・・・・・・・・・・・170

報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・172

参加者印象記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・180

参加者アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・212

日本薬学会第２回全国学生ワークショップ実行委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・235

第２回全国学生ワークショップの概要

公益社団法人日本薬学会は平成 23 年度より教育に関する組織を一元化し、薬学教育のあり方について議論を行う場として“薬学教育委員会”（以下、委員会）を設置した。委員会の事業の一つに「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」の企画・開催がある。委員会は、薬学教育に携わる大学教員や薬剤師のための新たな研鑽（Faculty Development：FD）について検討する作業班を設け、平成 23 年 12 月に「学習成果基盤型教育（Outcome-based education）に基づいて６年制薬学教育の学習成果を考える」をテーマとする「第１回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」を開催した（報告書は http://www.pharm.or.jp/kyoiku/pdf/ educatorsWS_002.pdf を参照）。

この「第１回薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」の目的・内容などについて検討する過程で、学習の主体である学生のニーズを確認する必要性が指摘された。平成 23 年度は６年制薬学教育課程の完成年度であり、一期生は最終学年である６年次まで進級していた。そこで、最終学年を迎えた一期生から６年制薬学教育に対するフィードバックを受ける目的で、全国の薬系大学・薬学部の６年次学生を参加者とする「第１回全国学生ワークショップ」を平成 23 年８月に開催した（報告書は http://www.pharm.or.jp/kyoiku/pdf/gakusei_230925.pdf を参照）。ワークショップでは６年制薬学教育の成果と課題をテーマに非常に活発な議論が行われ、参加者からは学生ワークショップの定期的な開催が強く要望された。委員会では学生ワークショップを継続することの意義について確認し、昨年度に引き続いて今年度も６年次学生を主たる参加者とする第２回全国学生ワークショップを開催することとした。第２回は、平成 24 年３月に卒業した一期生との合同討議や参加者間交流の機会を設けるため、全員が研修施設に宿泊する１泊２日のプログラムとした。

「第２回全国学生ワークショップ」の開催日を夏季休暇中の８月７日（火）～8 日（水）とし、平成 19 年度までに６年制薬学教育課程を設置した大学に対して６年次学生各１名の派遣を依頼した。ワークショップ参加者は 67 名で、3 チームに分かれ、各チームはさらに１グループ 7～8 人ずつの 3 グループに分かれてグループ討議を行った。ワークショップのテーマは「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」とし、全体を五つのセッションで構成した。各セッションの概要を以下に紹介する。

まず第一部では「６年間の大学生活で一番印象に残っている場面」を各参加者が絵に描き、グループ内およびチーム内で互いに紹介した。

第二部では「６年制薬学教育を通して成長したこと」を KJ 法に従って抽出・整理し、プロダクトは模造紙に図式化した（各グループのプロダクト写真を p.3 - 7 に掲載）。

第三部のテーマは、第二部の「成長したこと」を受けて、「６年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」とした。このセッションでは、意見交換の相手をグループ内からチーム内に広げる目的で、メンバーを変えながら議論する World Café を実施した。World Café でのグループ討議は 3 ラウンドとし、第 1 ラウンドのテーマは「私は、大学のここが好き」、第 2 ラウンドは「でも、

大学でこれができればよいのになぁ」、そして最後の第３ラウンドを第三部のテーマでもある「もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」とした。第１・第２ラウンドは議論のみとし、この流れを受けて行った第３ラウンドの議論をプロダクトとして模造紙にまとめ、チーム内で発表した。

特別プログラムとして「一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ」を初日 18 時から企画したところ、６年制一期生で学生ワークショップ参加経験者 11 名が駆けつけてくれた。一期生が１時間のグループ討論でまとめたプロダクトを参加者全員の前で発表すると共に、一期生一人ひとりが卒業後５ヶ月目のメッセージを伝えた。

一日目の最後は“情報交換会”とし、参加者間の交流を深めた。情報交換会では、第一部の「６年間の大学生活で一番印象に残っている場面」において参加者が描いた絵のうち、各チームで最も印象的な絵をタスクフォースが選び、MIP（Most Impressive Picture）として表彰した。

二日目午前の第四部では学生が望む学習成果（learning outcomes）を明らかにする目的で、「６年制薬学教育課程を卒業する時にどのような能力を身につけていたいですか」を議論のテーマとした。各チームでの発表と合同討議終了後、文部科学省の薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂専門研究委員会による「薬剤師に求められる基本的な資質（案）」を紹介し、各資質の修得度について自己評価によるアンケート調査を実施した。

最後の第五部では、第四部までの議論を踏まえた上で、「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」をグループごとに協議してまとめた。第四部まではプロダクトをチーム内で共有したが、第五部のプロダクトは全参加者の前で発表した。各グループの発表に対しては、参加者から質問や意見が相次ぎ、非常に活発な討論が行われた。

各グループには第二部～第五部のプロダクトを議論の経緯と共に報告書としてまとめること、また各参加者には意見、感想、メッセージなどを“印象記”として提出することを依頼した。提出された報告書原稿は、書式や写真掲載をグループ間でそろえるため一部編集・加工したが、本文の加筆・変更は行っていない。報告書原稿のあとには、参加者からの印象記とアンケート結果を掲載した。印象記およびアンケートの自由記述には、本ワークショップに参加した学生の意見、感想、メッセージが記されているので、報告書と併せて是非お読み頂きたい。

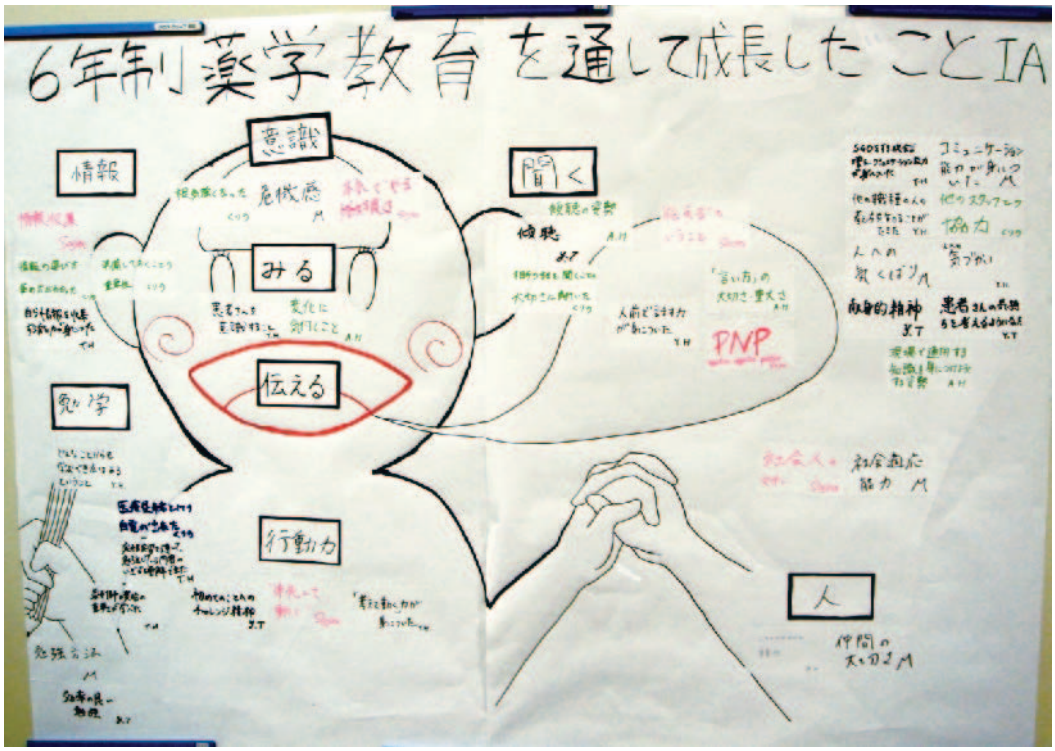
日本薬学会第２回全国学生ワークショップ実行委員会では、プロダクトのまとめ方について協議した結果、第１回と同様、各班から提出された報告書の内容をそのまま伝えることとした。そこで、テーマごとに各班の特徴となるメッセージを抜粋し、アブストラクトとして以下に紹介する。メッセージから各グループの学生達の考え・意見・要望などをくみ取っていただき、詳細については各班の報告書を熟読していただきたい。また、学生からのメッセージを関係者間で広く共有し、今後の薬学教育の改善・向上に役立てていただきたい。

プロダクト抜粋

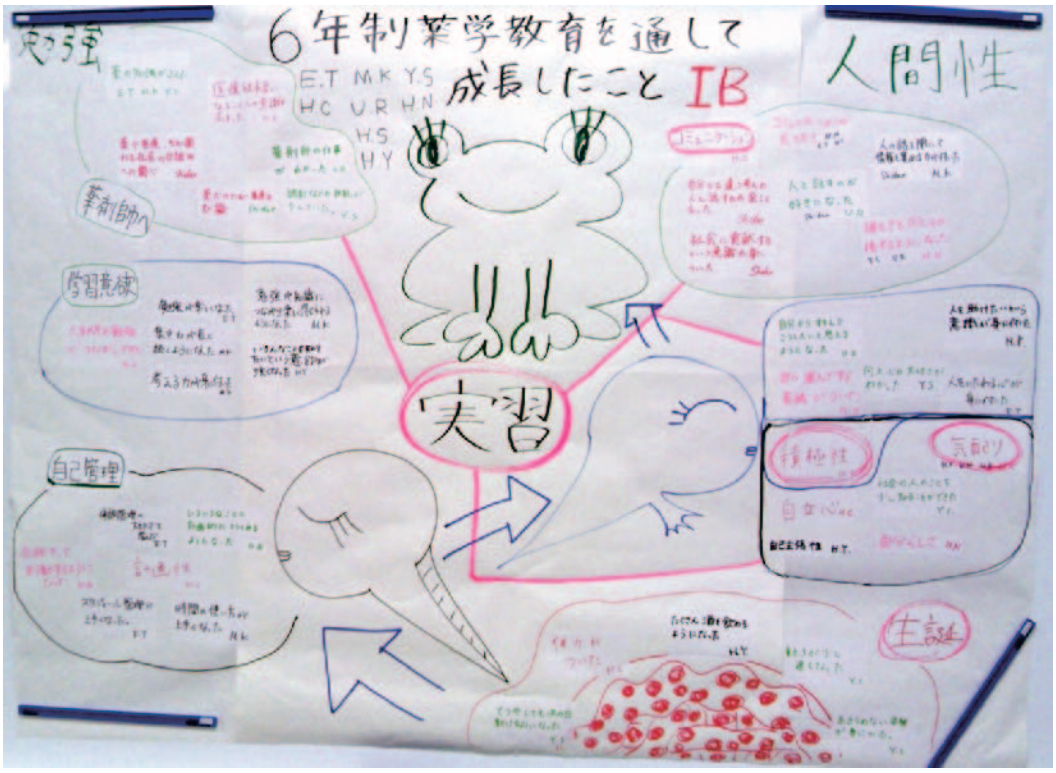
１．第二部「６年制薬学教育を通して成長したこと」

各グループが工夫を凝らして図式化したプロダクトを以下に紹介する。個々のカードに記載された内容については、各グループの報告書をご覧ください。

【ＩＡ班】



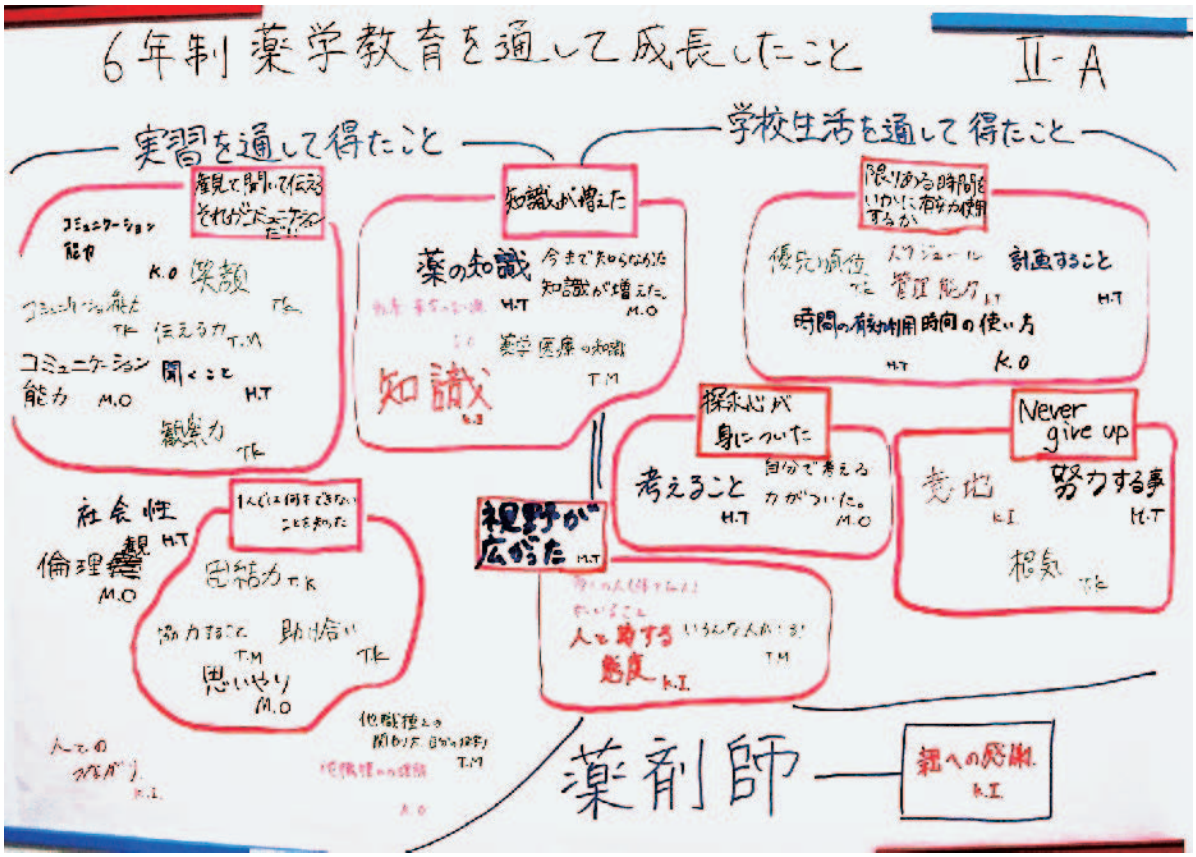
【ＩＢ班】



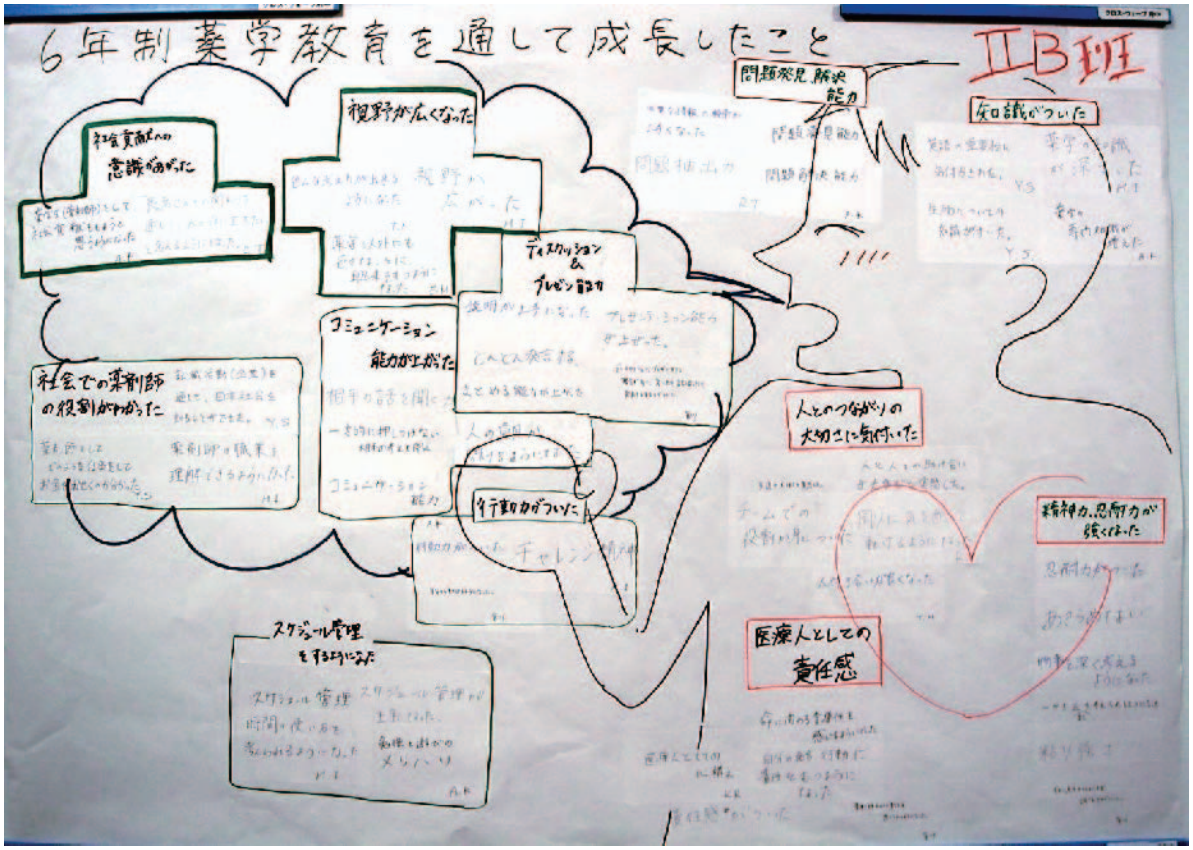
【ＩＣ班】

6年制薬学教育を通して成長したこと
IC
人間関係の築き方
臨床現場で学んだ患者さんの気持ち
日々の自己研
薬学を通して身につけた人間力

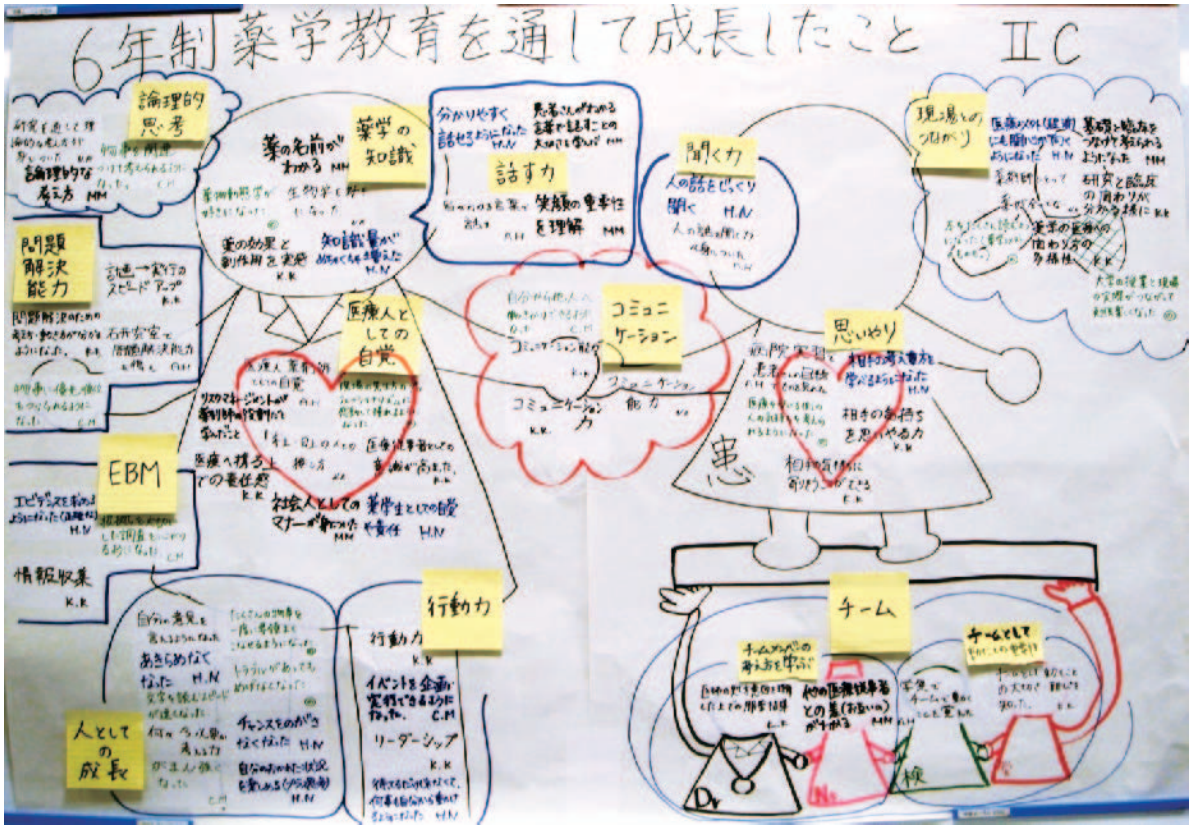
【ＩＩＡ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと
II-A
実習を通して得たこと
学校生活を通して得たこと
知識が増えた
視野が広がった
Never give up
薬剤師

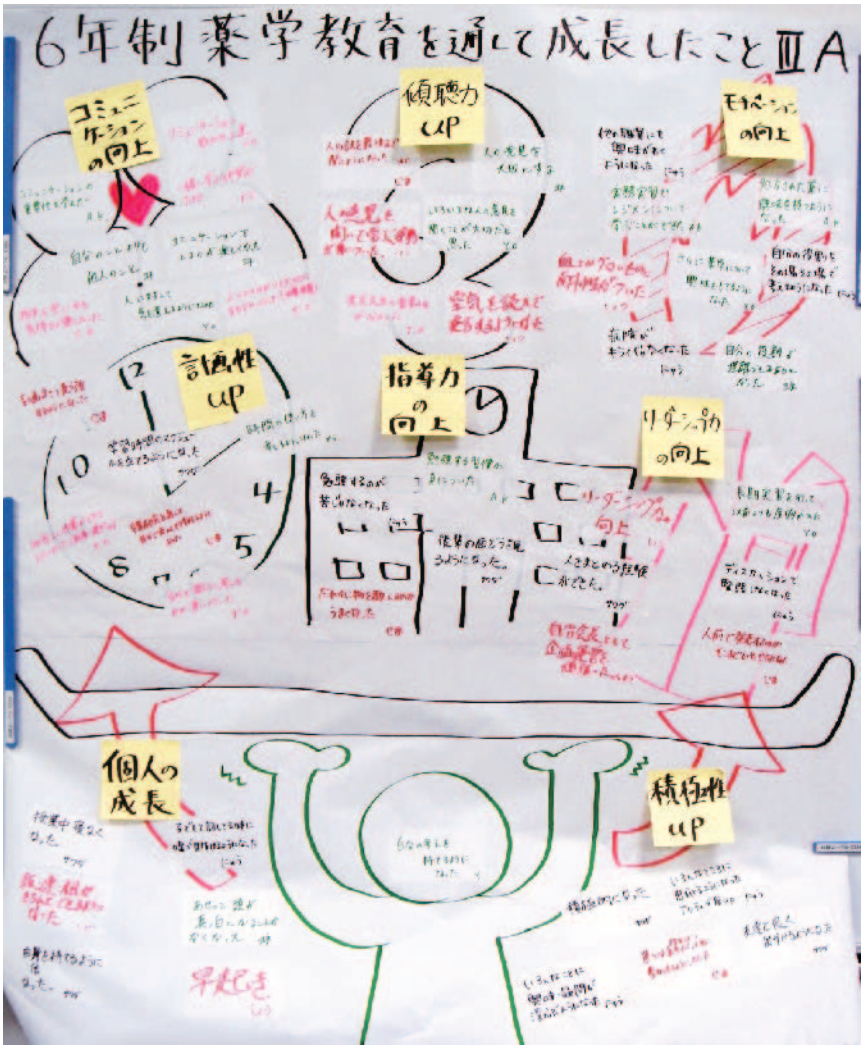
【ⅡＢ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと
ⅡB班
社会貢献への意識がついた
視野が広くなった
問題発見 解決能力
知識がついた
ディスカッション&プレゼン能力
コミュニケーション能力が上がった
社会での薬剤師の役割がわかった
人とのつながりの大切さに気付いた
行動力がついた
精神力、忍耐力が強くなった
スケジュール管理をするようになった
医療人としての責任感

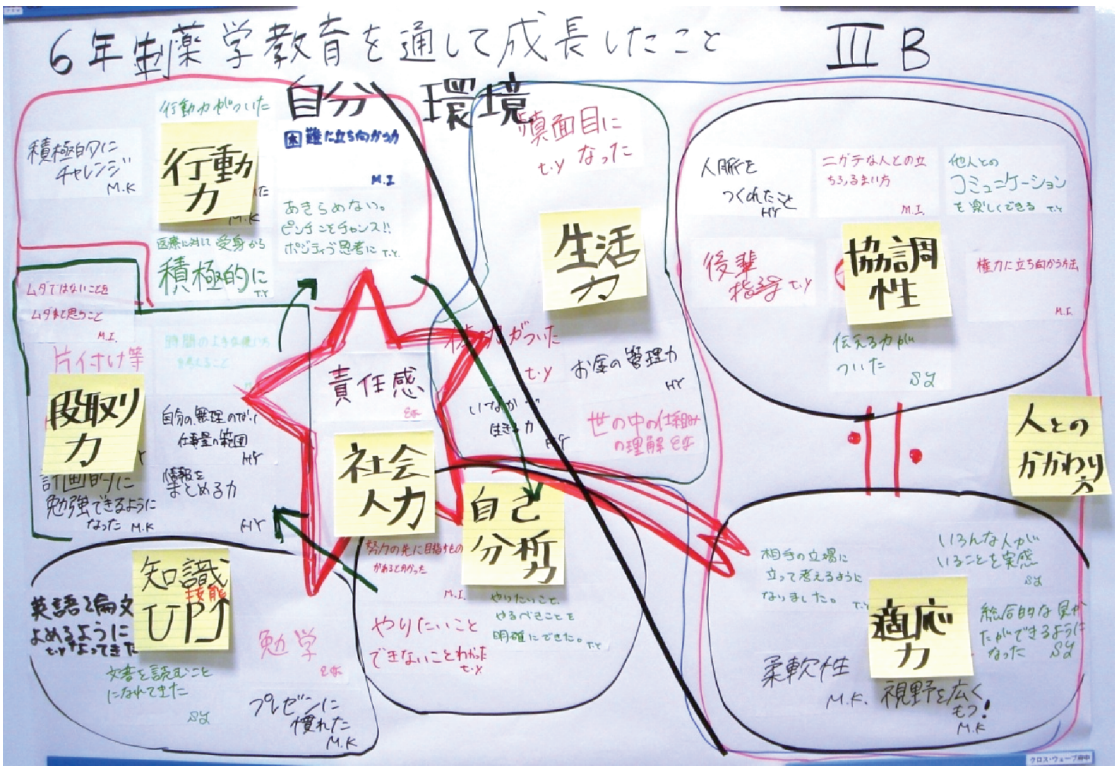
【ⅡＣ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと ⅡC
論理的思考
薬の名前がわかる
薬学の知識
分かりやすく話せるようになった
話す力
聞く力
現場とのつながり
問題解決能力
医療人としての自覚
コミュニケーション
思いやり
EBM
情報収集
行動力
チーム
人としての成長

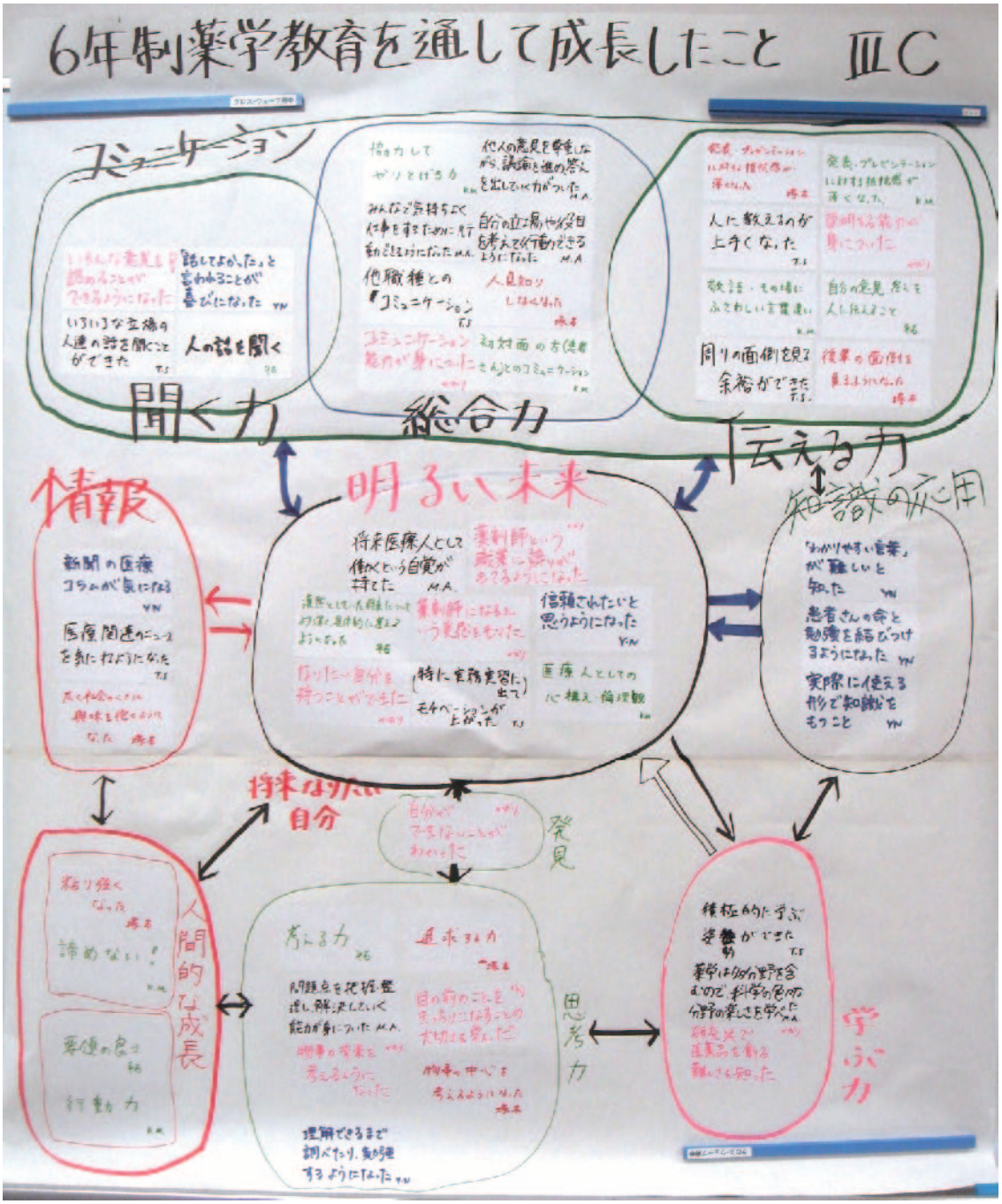
【ⅢＡ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと ⅢA
コミュニケーションの向上
傾聴力UP
モチベーションの向上
言語性UP
指導力の向上
リーダーシップの向上
個人の成長
積極性UP

【ⅢＢ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと ⅢB
自分
環境
行動力
生活力
協調性
人とのかかわり
責任感
社会人力
自己分析
知識UP
適応力

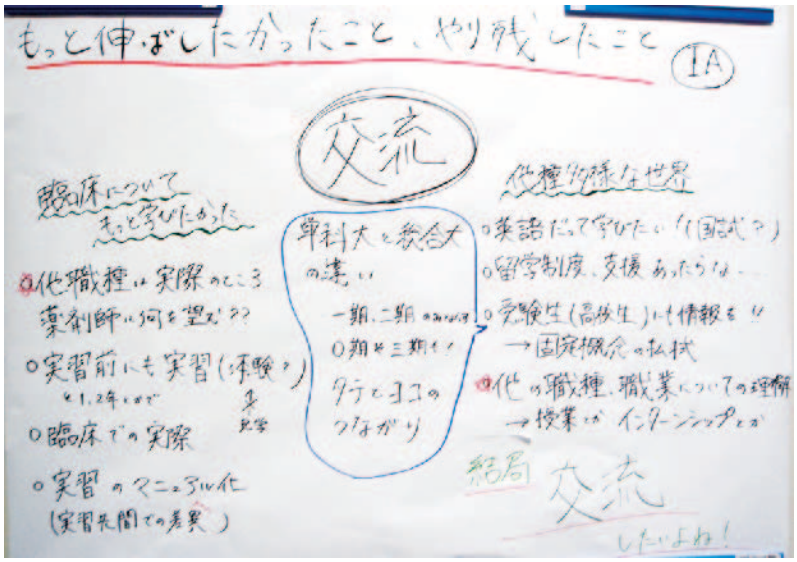
【ⅢＣ班】


6年制薬学教育を通して成長したこと　ⅢC
コミュニケーション
聞く力
総合力
伝える力
知識の応用
明るい未来
情報
将来医療人として働くという自覚が持てた
薬剤師という職業に誇りがあてるようになった
信頼されたいと思うようになった
医療人としての心構え・倫理観
「わかりやすい言葉」が難しいと知った
患者さんの命と勉強を結びつけるようになった
実際に使える形で知識をもつこと
新聞の医療コラムが気になる
医療関連のニュースを気にするようになった
将来なりたい自分
自分がマーキングしないことがわかった
発見
人間的な成長
諦めない！
考える力
追求する力
問題点を花粉症に置き換え解決していく能力が身についた
目の前のことを当たり前なものの大切さを学んだ
物事の中心を考えるようになった
理解できるまで調べたり、勉強するようになった
思考力
積極的に学ぶ姿勢ができた
薬学は多分野を含むので、科学的思考分野の楽しさを学べた
学ぶ力

２．第三部「６年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」

各グループが工夫を凝らして図式化したプロダクトを以下に抜粋する。具体的な内容は各グループの報告書をお読みください。

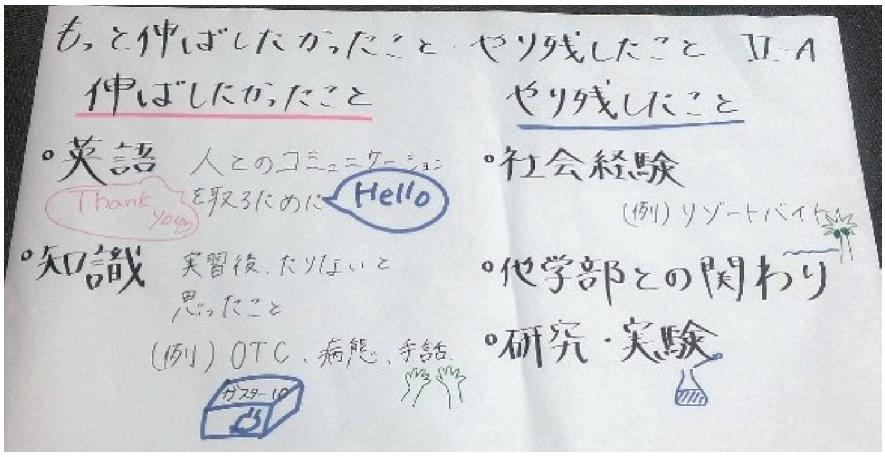
【ＩＡ班】



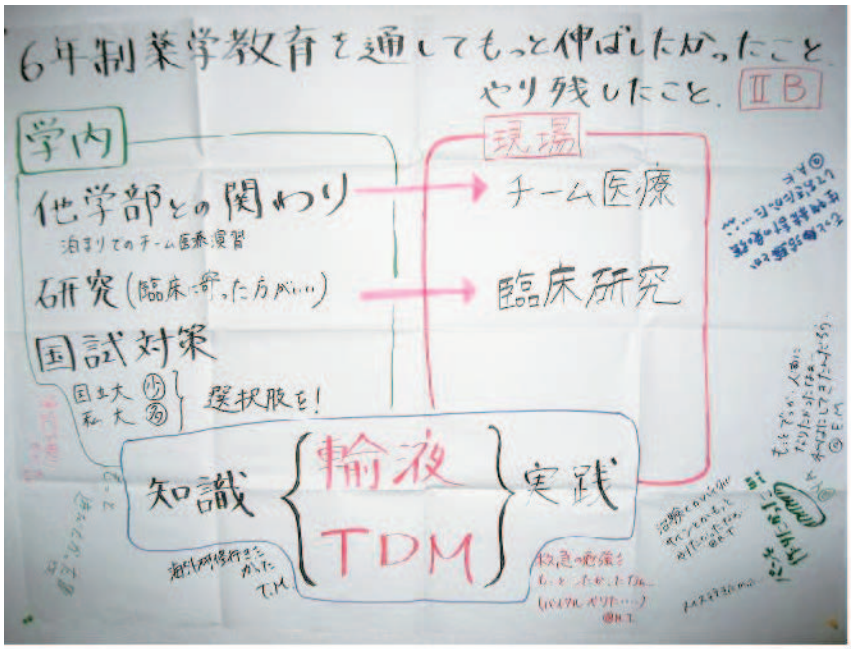
【ＩＢ班】

【ＩＣ班】

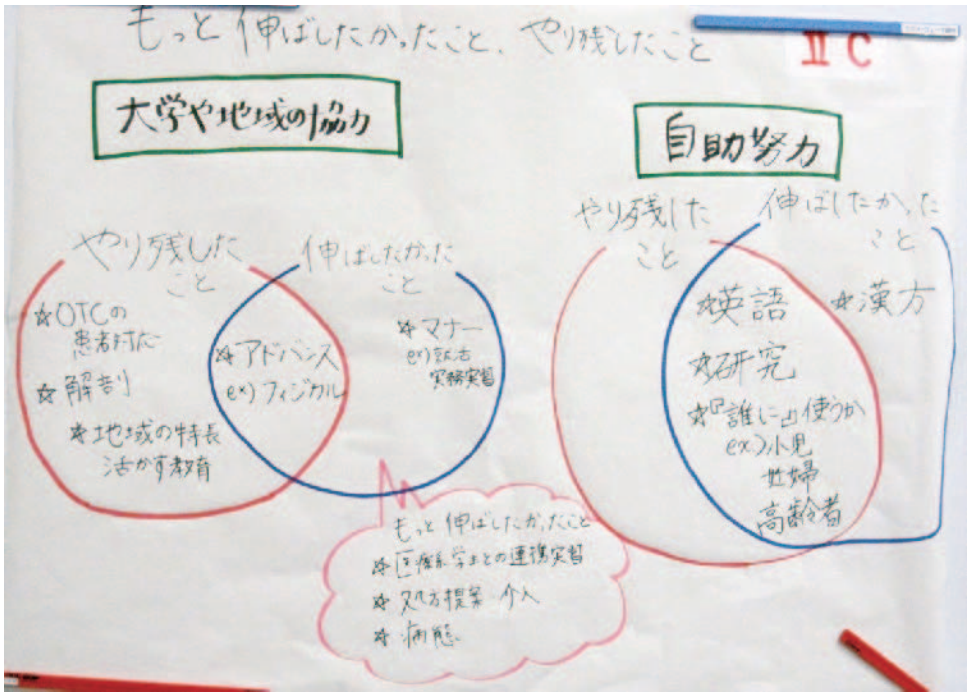
【ⅡA班】


もっと伸ばしたかったこと・やり残したこと ⅡA
伸ばしたかったこと
やり残したこと
英語 人とのコミュニケーションを取るために
Thank you
Hello
知識 実習後、たりないと思ったこと
(例) OTC、病態、手話
社会経験
(例) リゾートバイト
他学部との関わり
研究・実験

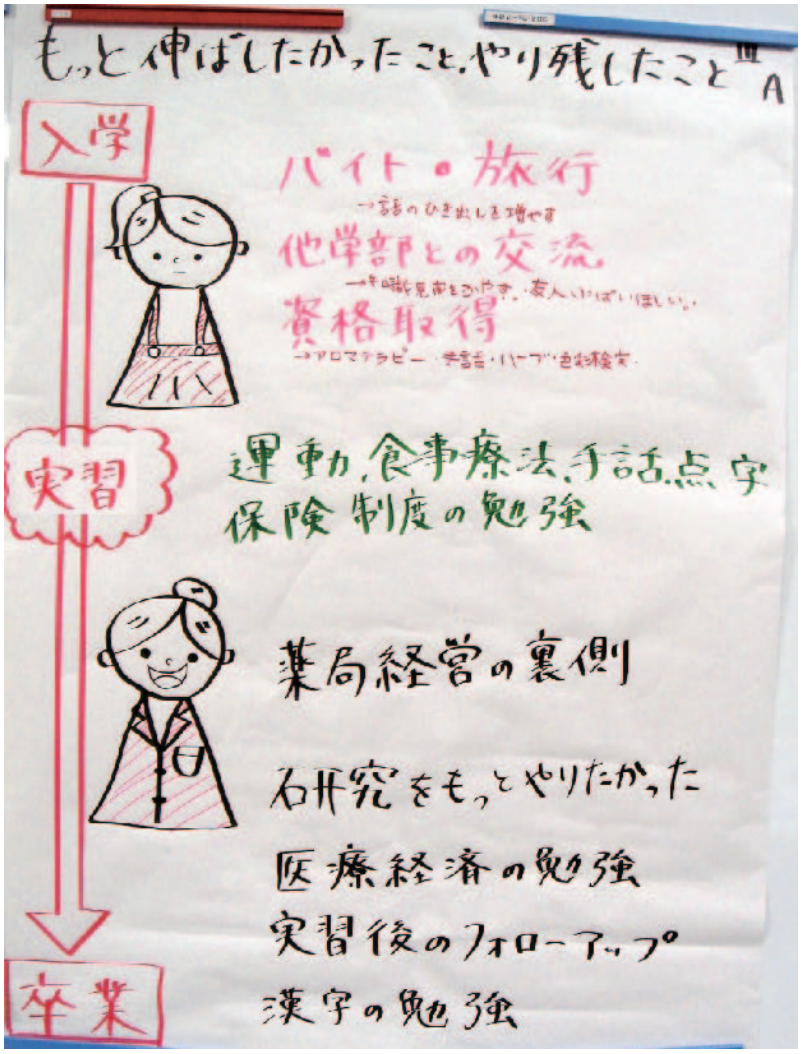
【ⅡB班】


6年制薬学教育を通してもっと伸ばしたかったこと、やり残したこと、ⅡB
学内
現場
他学部との関わり
泊まりでのチーム医療演習
チーム医療
研究(臨床に行った方がいい)
臨床研究
国試対策
国立大 私大 少 多
選択肢を!
知識
輸液
TDM
実践

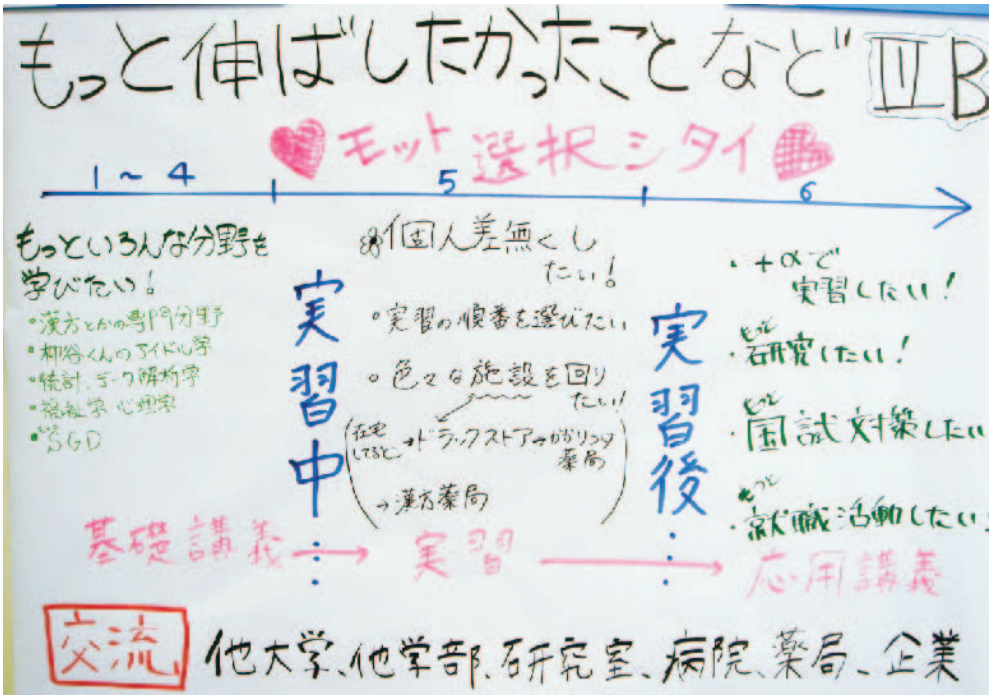
【ⅡC班】


もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと ⅡC
大学や地域の協力
自助努力
やり残したこと
伸ばしたかったこと
☆OTCの患者対応
☆解剖
☆地域の特長活かす教育
☆アドバンス ex)フィジカル
☆マナー ex)話法 実務実習
やり残したこと
伸ばしたかったこと
☆英語
☆漢方
☆研究
☆誰に出使うか ex)小児 性婦 高齢者
もっと伸ばしたかったこと
☆医療系学生との連携実習
☆処方提案 個人
☆病態

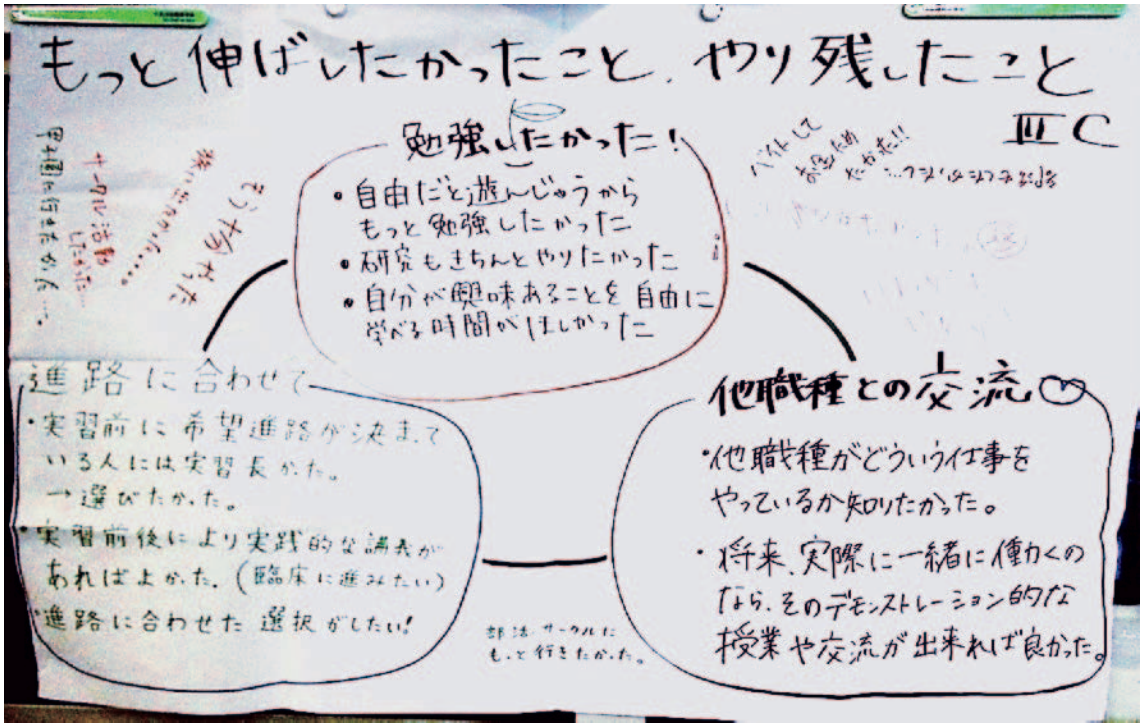
【ⅢＡ班】


もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと ⅢA
入学
バイト・旅行
→話のひき出しを増やす
他学部との交流
→キャリア見直しをかけます。友人いっぱいほしい。
資格取得
→アロマテラピー・手話・ハーブ・色彩検定
実習
運動、食事療法、手話、点字
保険制度の勉強
薬局経営の裏側
研究をもっとやりたかった
医療経済の勉強
実習後のフォローアップ
漢字の勉強
卒業

【ⅢＢ班】


もっと伸ばしたかったことなど ⅢB
モット選択シタイ
1～4
5
6
もっといろんな分野を学びたい！
・漢方とかの専門分野
・柳谷くんのアイドル学
・統計、データ解析学
・組織学 心理学
・SGD
実習中
個人差無くしたい！
・実習の順番を選びたい
・色々な施設を回りたい!!
(在宅してると→ドラックストア→がりつく薬局
→漢方薬局)
実習後
・+αで実習したい！
・研究したい！
・国試対策したい
・就職活動したい
基礎講義 → 実習 → 応用講義
交流
他大学、他学部、研究室、病院、薬局、企業

【ⅢＣ班】



３．第四部「６年制薬学教育課程を卒業する時に身につけていたい能力」

各グループから提案された「６年制薬学教育課程を卒業する時に身につけていたい能力」を以下に抜粋する。ほぼすべてのグループで自己管理や自己研鑽に関する能力があげられていることに注目したい。具体的な内容は各グループの報告書をお読みください。

【ＩＡ班】

1. 精神力

理想の社会人になるために、積極的に学び続け、それを活かせる自信をつける。

2. 自律力

自分を理解し、さらに研鑽する。

3. 応用力

基盤となる知識を身につけ、応用する。

4. 対人能力

広い視野を持って、細かいことにも目を向け、相手を思いやる。

【ＩＢ班】

『薬剤師力』

医療人としての責任感をもって、患者さんと他職種から求められる技術・知識・態度・人間性を身につけ、さらに上を目指すために自己研鑽できる。

↓そのために・・・

1. 生涯学習能力

将来に向けて自己研鑽できるように意識をもっておく。

2. 情報収集伝達能力

患者さんのニーズに応えるため、文献等から情報を収集し、また、他業種・他職種・患者さんからも情報を得ることで、提供できる医療の幅が拡がる。

3. 自己管理能力

【ＩＣ班】

I. 問題提起・解決力

・ 物事を正確に判断し解決する力

II. 研究をデザインする能力

・ 探究心を持って一つのことを掘り下げる。

III. 社会と付き合う人間力

・ 情報、知識を相手から受け取る。

・ 自分の考えを伝え、表現する。

・ 相手に応じたキャッチボール。

IV. 責任感

【ⅡＡ班】

問題解決能力

正しい情報・知識を身につけ、考えることができる。

自己管理能力

自分で体調、スケジュールの管理ができる。

発信力

表現できる多くのツールを身につけ、分かりやすく伝えることができる。

精神力

自分に厳しくできる。

人間力

【ⅡＢ班】

・知識・技術

注射薬・輸液を正確に調剤できる能力

外用薬の指導ができる能力

・問題発見・解決能力

多角的な視点

・医療人としての責任感

・精神力・忍耐力

・コミュニケーション能力

・ディスカッション能力・プレゼンテーション能力

・先を見る力

自分の将来像などのビジョンを持つこと

世の中のニーズをつかみ、情報収集すること

【ⅡＣ班】

1. 情報収集・発信能力

広い視野を持ち、根拠ある情報を収集し、管理・加工・発信することが出来る。

2. 自己研鑽能力

薬剤師として知識・技術・態度を自己研鑽することで、チーム医療に貢献する。

3. チーム医療推進能力

積極的に問題を提起し、明瞭なアウトプットを通じて、問題を共有することで、チーム内の相互理解を深める。

【ⅢＡ班】

◆ 薬学的能力

a. 知識：薬剤師として構造式という観点からも、臨床的な観点からも薬の特徴を理解し、科学的根拠を明示できる。

b. 実践：実習や授業で身に付けた基本的な知識を研究や臨床の場で臨機応変に活用できる。

◆ 自主性

今、自分に何が足りないか自己分析し、理想の薬剤師像を持つことでモチベーションを高め、計画性を持って積極的に学び不足部分を補うことが出来る。

◆ 協調性

他職種との連携が出来る薬剤師になるために、コミュニケーション能力、特に相手の意見に耳を傾けることができる。

【ⅢＢ班】

1）薬剤師としての能力

① 薬学的知識・技能：患者さんに合わせた適切な処方を判断でき、正確さや安定感をもって正しい調剤ができる。

② 薬剤師的態度：理想の薬剤師と言われるようなオーラ、誇りをもつことができる。

③ 教養知識・技能：薬学領域のみならず、周辺領域の知識技能を習得することによって幅広い視野・見識をもつことができる。

2）社会人としての能力

① 自己分析・判断力：自己を分析し、自分の能力および状況に合った判断・決断そして行動をすることができる。

② 自己管理能力：自分の限界を理解して、それに合ったスケジュール管理及び体調管理ができる。

③ コミュニケーション能力:患者さん、医療職などと適切に話し合い、情報を引き出すことができる。

【ⅢＣ班】

1. 患者のリスクを最小限に抑える力
   リスクを回避するために、正確な知識を身に付け、投薬後、患者にどのような影響が出るか想像できる。
2. コミュニケーション能力
   聞く力、伝える力(患者に対する)
3. チーム医療に貢献する力
   他職種との交流、違う立場を思いやれる
4. 自己管理能力
   健康、時間管理、ストレス解消能力
5. 問題解決能力
   考える力、多面的な視点
6. 臨床的な専門知識
   検査値、処方解析
7. 薬剤師の職能を広げる力
   積極性、人前に出る、啓発活動
8. 医療人としての倫理観
   医療人としての自覚
9. 自己研鑽能力

４．第五部－１「６年制薬学教育に望むこと」

【ＩＡ班】

・６年制になった意義を学生に伝えてほしい。
・具体的な理想像・将来図を描ける環境を作ってほしい。
・他の価値観を学ぶために、留学制度の確立、学生の制度利用の後押しをして、**モチベーションを高められる環境**を作ってほしい。
・薬剤師に期待されていることを明確に学生に伝えてほしい。
・６年制の薬学部の強みはっきりとさせたい。
・**他学部の学生の実情を知る機会**を増やしてほしい。

【ＩＢ班】

＜交流の場を拡げてほしい＞

●学年を越えての SGD など交流の機会を設けてほしい。

＜ニーズに合わせ選択できるカリキュラム作り＞

●どの分野の研究室でも臨床と関われるようにしてほしい。
●研究時間を増やしてほしい。

＜将来のビジョンを描く手助けを＞

●他業種について学ぶ機会を設けてほしい。
●受験生に大学の特色を示してほしい。

＜チーム医療のなかで活躍するために＞

●他の医療系学部の学生との交流機会を設けてほしい。
●医師中心になっている医療の変革をすすめてほしい。

実習に関して望むこと

●実習先のバラツキを改善してほしい。

【ＩＣ班】

・低学年から様々な現場を経験し、自分の進路を早期から考えられるチャンスを作ってほしい。
・臨床で活躍したい人や企業、研究で活躍したい人、それぞれにあった適切な実務実習となるよう柔軟に対応して欲しい。
・他の理系学部に比べ研究力が衰えているが、研究という進路をもっと選択しやすいような環境づくりをすべき。
・薬剤師として幅広い可能性を伸ばせる環境づくりを!!
・6 年前期の授業内容を改変するべき。
・国公立大学または私立大学や単科大学または総合大学で差をつけるべき点と均質にすべき点を明確にして欲しい。
・薬系大学へ行くことの一般的なイメージを変えたい。

主張Ⅰ： 薬学部は薬剤師になるための専門学校ではない!!

主張Ⅱ： やる気がある人が勉強しやすい環境整備を!!

【ⅡＡ班】

学習方法と人的交流の両側面から６年制教育が改善・発展して欲しい。

学習方法

・現場で使える教育
・薬学以外の関連するところの学習：栄養学、一般用医薬品、サプリメント、健康食品等
・研究と勉強のバランス

人的交流

・他学部との交流
・発表・発言する

【ⅡＢ班】

現行のシステムでは教育内容が臨床現場に対応できていない、必須科目ばかりに縛られ科目履修の自由度が少ない。大学学部間の連携、大学－実習施設間の連携が悪い。実務実習においても自由度が少なく、また教育水準のばらつきが大きすぎる。

［大学・行政に対して］

・臨床で使える知識、技術を知りたい（輸液、検査値、画像解析など）。
・他の医療系学部との接点を持ちたい。
・コア・カリキュラムの見直し（重複、無駄が多い）
・選択科目を増やして欲しい。

［実習施設に対して］

・大学との連携の悪さを改善して欲しい。
・指導薬剤師による教育内容の差を減らして欲しい。
・複数の施設で実習を行いたい。
・病院/薬局以外の施設でも実習を行いたい（介護施設、福祉施設）。

【ⅡＣ班】

①６年制＝４＋２（α）を完成させてほしい。
２年間増えた分、アドバンスの教育・実習を充実させてほしい。

②大学間での教育の差を埋めてほしい。
各大学の特長は生かしつつ、ある程度共通して教育すべき部分を統一してほしい。

③教育制度の充実

・ 今後、”上級生と下級生および在学生と卒業生”の循環のある教育を実施することが望まれる。
・ 今後、高い倫理観を養う教育が必要である。
・ 「こんな薬剤師になりたい」というロールモデルの設定、将来の選択肢が広がる体験の推進、先に挙げた異なる学年間、在学生と卒業生間のつながりをつくることでモチベーションの向上や視野の広がりを生み、学生が６年制薬学部生の自覚をもって育つような教育も今後望まれる。

④他学部とのつながりにより、在学中からチーム医療の意識を高める（最終目標）

制度の改良を一方的に望むのではなく、我々学生が６年制薬学部をよりよいものにするために意識し、行動することが先ず必要である。また、議論の最後に「６年制薬学部を卒業した薬剤師のどこまでが医療人なのか」という疑問が得られた。医療施設で白衣を着ている職種のみが医療人だという考えが本当の意味での医療人の間に壁をつくってしまう恐れがある。そのため我々はもっと広い視野を持つ努力をする必要があると考えた。学生、大学、薬局、病院、行政がそれぞれ意識し、連携することで６年制薬学教育はより充実したものになると考えた。

【ⅢＡ班】

現行制度を改善してほしいこと

・実習先による学習内容の差をなくす

・SGD における KJ 法や World Café などの導入

・OSCE の採点基準の再考（重点の明確化）

・処方箋からより多くの患者情報をひろう（保険制度の理解）

新しく導入してほしいこと

・実習における選択性を持ちたい（アドバンスト制度など）

・現場の話を聞きたい（在宅医療、リハビリテーション）

・地域に還元出来る近隣大学との交流やイベント（薬学以外）

・縦のつながり（先輩、後輩）

・論文を読む授業

【ⅢＢ班】

●もっと選択したい

①実務実習に関して

個々の学生のニーズ（進路）に合わせた実習時期の選択や実習先の選択（病院・薬局・企業等）、６年次のカリキュラムの選択を望む。

②実務実習を生かしたカリキュラム

・病態生理学や薬物治療学に関しては実習後に講義を受けた方がわかりやすかった。

・早期体験学習は実務実習を翌年に控えた 3 年次の方がよかった。

●もっと交流したい

「薬剤師としての専門知識はもとより専門外の知識も持ち、他者と適切なコミュニケーションができ、光り輝くオーラを放つ薬剤師」というのが、私たちのグループがもつ理想の薬剤師像である。理想の薬剤師に近づくために必要な知識・教養・コミュニケーション力を培うにためには、実務実習のほかに、大学外と接触する機会が必要

・ 大学間、学部間、研究室間での交流

・ 企業、官庁との交流

・ 海外の大学との交流

・ 上下間の交流

・ 他のコメディカルを目指す学生との交流

【ⅢＣ班】

＜教育カリキュラムの改善＞

①実務実習後のフォローアップ

実務実習で自分に不足している力は何であるかに気付くことはできたが、その力をどのように身につけたら良いのか分からず、せっかくの気付きを生かしきれていない。その気付きを生かすためには、実務実習後にフォローアップのための授業を実施すれば良いのではないか。

②希望進路に合わせた実習・授業

6 年間という限られた時間の中で効率的に各学生のニーズに合わせた教育をするためには、希望進路に合わせた実習・授業を選択科目として実施すれば良いのではないか。

＜実習に関する体制の充実＞

➢長期実務実習について

①全ての医療機関における最低限の指導レベルの確保

②臨床現場のポテンシャルを最大限に生かす体制作り

➢長期実務実習以外について

・早期体験学習のような実習を 2～4 年次にも継続的に行うことを検討して欲しい。

・社会で活躍する薬学部出身者との交流を、なるべく早期より継続的にしたい。

５．第五部－２「卒業後に取り組んでいきたいこと」

【ＩＡ班】

＜深めたい＞

・職を超えて交流を深め、柔軟な対応ができる力を養いたい。

・薬剤師の中でも様々な職種があり、その間で交流し、刺激を与え合いたい。

・違う目線を取り入れ、違う立場の人と接する上で芽生える思いやりを大切にしたい。

＜伝えたい＞

・一期生の姿を参考に、その後さらに改良された教育を受けた二期生として、２０～３０歳下の後輩たちに６年制の意義、できることの広さを伝えたい。

・薬剤師の活躍を他の人に伝えたい（ドラマに出るくらい広めたい)。

・法律から変えていきたい。薬剤師の可能性を広げたい。

＜自分達に対して＞

・ワークショップや交流を通して、向上心を持ち続けたい。

・仕事ぶりを通して、６年制になった意義を伝えていきたい。

【ＩＢ班】

自己研鑽し、得た知識・技能を後輩に伝えたい

●自己学習

●後輩の育成

他職種と協力して相互に学び合うことで、医療に貢献したい

●他職種との相互学習

患者さんと向き合い、信頼される薬剤師になりたい

●患者背景をふまえてニーズにあった医療を提供

●障害をもつ患者さんに満足してもらえる薬剤師

●教養を増やす

●介護の知識やフィジカルアセスメントを身につける

【ＩＣ班】

「薬剤師への認識を変える、6 年制薬学部教育の可能性をもっと広げる。」

・医師が安心して処方できる情報提供

・留学したい

・研究をがんばる!

・グローバルヘルスに取り組む。

・薬剤師へのみんなの認識を変える!

・1 期生、2 期生が今後集まりディスカッションできる場を設けたい。これを次期生へ繋げていく。

・現場に変化を生み出せる Creative な仕事がしたい!

【ⅡＡ班】

調剤薬局

・かかりつけ薬局となり、薬の事はもちろん、生活全般のこと、病院に行く前に相談できるところにしたい。

・在宅に力を入れたい。

・障害者手帳等の制度を患者に伝えて行きたい。

ドラックストア

・在宅を行っていきたい。

・抗がん剤の外来化学療法なども請け負えるようにしたい。

・セルフメディケーションに力を入れ、病気の予防に努めていきたい。

病院

・専門薬剤師になりたい。

・総合的に患者を見られるようになりたい。

・学会発表や勉強会に参加できる環境や多くの薬剤師が患者と接する事が出来るような体制を整えたい。

臨床開発

・患者に直接関わることができないからこそ、実習で学んだ知識や経験を生かして仕事をしていきたい。

【ⅡＢ班】

知識、経験を基に専門性を高めるのみならず、広い視野を持って様々なものを吸収していきたい。また、薬剤師として進路や教育課程の違いにとらわれず、横のつながり、縦のつながりを強めていきたい。そして社会人として行動に責任を持ち、自ら変化を作りだせる人間に成長していきたい。

［自己研鑽］

・知識、経験を増やす（検査値、画像解析など）

［繋がり］

・現場－企業－行政の繋がりを大切にしたい

・４年制薬剤師と６年制薬剤師の橋渡し役をしたい（温故知新）

［精神面］

・様々な事に対して責任を持つ

・先見性を持つ

【ⅡＣ班】

①企業と病院、社会との懸け橋になる。

②頼られる薬剤師として、スペシャリストになる。

③医学部や看護学部で教育する。

学部教育の段階で他職種が教育に携わることで、チーム医療に対する意識を学生の間に組み込んでいきたい。職種間で”教え、教えられる関係”をつくることが必要だと考えた。

④現場を理解した行政を進める。

「行政が患者を救う」という見方を広めたい。

⑤フィジカルアセスメントの重要性を広める。

⑥処方提案などの職能発揮、地位の向上

⑦予防医療への積極的な提案

⑧TDM（マネジメント）の推進

”薬薬連携”を超えて”薬薬薬行学 連携”として病院薬剤師、薬局薬剤師、企業の薬剤師、行政の薬剤師、大学の薬剤師等が連携していく必要がある。これを実現する為に、我々６年制薬学部卒の薬剤師が先陣を切って医療を革新することが求められているのではないかという結論に至った

【ⅢＡ班】

・専門薬剤師・認定薬剤師になりたい。

・指導薬剤師になりたい（後輩達の育成）。

・他職種との交流を深めたい（職域の拡大）。

・論文発表・学会参加をしたい（自己研鑽）。

・薬剤師として県を越えた交流をしたい。

・医療用医薬品以外の知識（化粧品・サプリメント）を増やしたい。

【ⅢＢ班】

社会：新たな発見や新薬の開発により、広い範囲でよい治療を提供したい。

薬剤師：医療現場で薬剤師として、あるいは薬剤師が働く環境を整備する立場として直接的・間接的に患者さんの治療を向上させたい。

地域：営業職や地域の基幹病院で勤めることで、地域間の医療格差を是正し連携の取れた地域医療を構築したい。

私たちはこれから、それぞれ異なる方向から（広く社会を変えることで or 現場で一人ひとりに接することで or つながりを強めることで）医療や治療の向上を図っていきたいと考えている。しかし目指すべきゴールは共通して「患者さんのＱＯＬを向上させる」ということだった。

【ⅢＣ班】

＜6 年制薬学教育に関わりたい＞

自分達が学生を受け入れる側になった時には積極的に学生指導に取り組みたい

＜薬剤師の地位を向上させたい＞

薬剤師は、薬に関するプロフェッショナルとして人の命に関わる非常にやりがいのある職種である。私達は、6 年制薬学教育を受けた者としてメーカーや病院、薬局などで力を発揮し、薬剤師に対する社会認識が変わるくらいの活躍をしたい。特に、実務実習と卒業研究を通して得られた臨床現場に関する知識や体験と問題解決能力は、どんな職場に行っても生かされるものだと思う。従って、これらを存分に生かして“6 年制”の存在意義を確かなものにしていきたいと強く思う。

チーム医療への薬剤師の参加によって患者や他の医療従事者との間に築かれ始めた信頼関係をより強固なものとするために、薬剤師の職責を十分に果たし、さらなる職能拡大に努めていきたい。

６．一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ

まず、卒業した時点で社会人として扱われるので、実務実習の時と同じだとは考えないこと。そして、6 年制を卒業しても 4 年制の薬剤師とは知識･経験の差が大きい一方で､6 年制卒に対する期待は大きく、我々一期生はそれぞれの場所で苦悩している。苦悩しているとは言え、6 年制で得た知識は十二分に長所として武器になっている。従って、6 年制を卒業した学生に対して生じるメリット以上に、社会では 6 年制への問題が存在しているのではないだろうか。そこで、我々一期生と共に二期生も一丸となって、「6 年制を意味あるものにして行きたい」と、一生一期生は考えている。

日本薬学会第２回全国学生ワークショップ
「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」

主　催　：公益社団法人　日本薬学会
開催日時：平成 24 年 8 月 7 日（火）12：00（受付開始 11：45）～8 日（水）14：30
開催場所：クロス・ウェーブ府中（〒183-0044　東京都府中市日鋼町１－４０　TEL 042-340-4800）
宿　泊　：クロス・ウェーブ府中

プログラム
（3P：全体会議、P：チーム討議、S：グループ討議）

第１日目：8 月 7 日（火）

11：45～		受付	
12：00		昼食	
13：00	3P	開会のあいさつ 西島正弘（公益社団法人日本薬学会 会頭）	5 分
13：05	3P	ワークショップ開催の経緯	10 分
第一部		「６年間の大学生活で一番印象に残っている場面」	
13：15	3P	作業説明	15 分
13：30	S	グループ討議	30 分
14：00	P	発表	15 分
第二部		「６年制薬学教育を通して成長したこと」	
14：15	P	作業説明　KJ 法	10 分
14：25	S	グループ討議	70 分
15：35	P	発表、総合討論	20 分
15：55		コーヒーブレイク	15 分
第三部		「６年制薬学教育を通して、もっと伸ばしたかったこと、やり残したこと」	
16：10	P	作業説明　world café	10 分
16：20	S	グループ討議	115 分
18：15	P	発表、総合討論	20 分
18：35	P	一日目のアンケート	
特別プログラム「一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ」			
18：00	S	一期生ミニワークショップ「一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ」	60 分
19：00	3P	「一生一期生、卒業後５ヶ月目のメッセージ」発表会	20 分
19：30～		情報交換会	

＜クロス・ウェーブ府中に宿泊＞

第２日目：８月８日（水）

７：00～　朝食

８：30　3P　１日目アンケートの結果報告　5分

第四部　「６年制薬学教育課程を卒業する時にどのような能力を身につけていたいですか」

８：35	3P	作業説明	10分
８：45	S	グループ討議	70分
９：55	P	発表、総合討論ほか	35分
10：30		コーヒーブレイク	15分

第五部　「６年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」

10：45	P	作業説明	5分
10：50	S	グループ討議	70分
12：00		昼食	
12：45	3P	全体会場に集合	
12：50	3P	発表、総合討論	70分
14：00	3P	閉会のあいさつ	15分
		伊東陽子（文部科学省 高等教育局医学教育課 薬学教育専門官）	
		松木則夫（日本薬学会 薬学教育委員会 委員長）	
14：15	3P	アンケート、連絡事項	
14：30		解散	

ワークショップ参加者および班分け

Ⅰチーム

チーフ：河野武幸

A班

北海道大学	柴野　さや子
新潟薬科大学	平良木　由布
慶應義塾大学	豊守　祥亮
千葉科学大学	三田　知世
大阪薬科大学	栗野　大輔
就実大学	原田　愛
松山大学	水谷　賢人

タスクフォース：大野尚仁

B班

東北薬科大学	星野　祐太
東京大学	志田　拓顕
日本大学	金子　未奈
金城学院大学	梅津　麗菜
大阪大谷大学	田中　絵理
神戸薬科大学	久　知佳
岡山大学	安田　聖古
第一薬科大学	中村　仁美

タスクフォース：石井伊都子

C班

奥羽大学	齋藤　可奈子
昭和大学	黒岩　亮平
星薬科大学	相良　篤信
富山大学	坂本　歩美
京都薬科大学	川上　遥
広島国際大学	宗本　哲也
九州大学	山崎　友華

タスクフォース：平田收正

賀川義之（1日目）

Ⅱチーム

チーフ：入江徹美

A班

北海道薬科大学	高橋　美衣
国際医療福祉大学	大柿　景子
東京薬科大学	田中　達也
武蔵野大学	今井　建介
金沢大学	小嶋　崇弘
同志社女子大学	大中　美帆
長崎大学	松田　智子

タスクフォース：高橋　寛

B班

東北大学	杉村　好彦
帝京大学	小林　絢子
東邦大学	磯崎　未帆
城西国際大学	森　恵里奈
愛知学院大学	水上　嗣海
大阪大学	武永　理佐
福山大学	小土井　亮介
九州保健福祉大学	有川　裕美

タスクフォース：鈴木　匡

C班

岩手医科大学	菊池　光太
日本薬科大学	吉川　望美
北里大学	松島　瑞希
昭和薬科大学	間宮　千尋
岐阜薬科大学	永井　寛子
摂南大学	細田　敦規
徳島大学	中谷　亮介
崇城大学	熊井　芳絵

タスクフォース：長谷川洋一

Ⅲチーム

チーフ：木内祐二

A班

青森大学	小野寺　祐里香
明治薬科大学	円入　智子
城西大学	矢島　里菜
北陸大学	米川　真史
静岡県立大学	大川　寛代
兵庫医療大学	澤田　友宏
徳島文理大学	岸　亜耶
熊本大学	古庄　弘和

タスクフォース：徳山尚吾

B班

北海道医療大学	柳谷　寛人
高崎健康福祉大学	柳下　祥子
千葉大学	山本　天心
名城大学	加藤　めぐみ
京都大学	福島　英美里
徳島文理大学香川	岩井　雅俊
福岡大学	八尋　友子

タスクフォース：橋詰　勉

C班

いわき明星大学	塚本　宇史
東京理科大学	荒井　碧
帝京平成大学	西關　由梨子
名古屋市立大学	平石　龍大
近畿大学	竹丸　香織
広島大学	松原　加奈
長崎国際大学	杉本　智宣

タスクフォース：亀井美和子

ディレクター

会頭	西島　正弘
委員長	松本　則夫

行　政

文部科学省	伊東　陽子
	日下部　吉男
	高木　涼香

オブザーバー

日本製薬工業協会	吉田　博明
日本薬剤師会	永田　泰造
	笠井　秀一
	田尻　泰典
薬学教育協議会	望月　正隆
薬学教育評価機構	小林　静子

事　務　局

日本薬学会	土肥　三央子
	寺沢　静恵

タスクフォース

昭和大学	中村　明弘
千葉大学	石井　伊都子
熊本大学	入江　徹美
東京薬科大学	大野　尚仁
静岡県立大学	賀川　義之
日本大学	亀井　美和子
昭和大学	木内　祐二
摂南大学	河野　武幸
名古屋市立大学	鈴木　匡
佐野薬局	高橋　寛
神戸学院大学	徳山　尚吾
京都薬科大学	橋詰　勉
名城大学	長谷川　洋一
神戸大学病院	平井　みどり
大阪大学	平田　收正

一期生

がん研有明病院	飯田　啓子
北里大学病院	小川　隆弘
中外製薬	角陸　舞
中外製薬	川幡　見奈子
城西大学大学院	間　祐太朗
厚生労働省	宮坂　知幸
昭和大学病院	宮本　千賀子
東京大学大学院	山口　奈美子
静岡済生会総合病院	横山　正人
九州保健福祉大学大学院	吉田　啓太郎
館林厚生病院	渡邊　なお子

タスクフォース：中村明弘

「開会のあいさつ」

西島正弘

（公益社団法人日本薬学会　会頭）

「ワークショップ開催の経緯」

説明原稿

日本薬学会
第2回全国学生ワークショップ

ワークショップ開催の経緯

実行委員長　中村明弘

2012年8月7日(火)
クロスウェーブ府中

公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan

日本薬学会
第1回全国学生ワークショップ
2011年8月4日(木)　大阪大学中之島センター
62名（62大学）

「6年制一期生として薬学教育に望むこと」

「これからも継続」
「交流の機会を」

1泊2日
議論と交流の時間

本WSのプログラム概要

7日(火)
- 13:15　第一部
- 14:15　第二部
- 16:10　第三部
- 19:00　一期生からのメッセージ
- 19:30　情報交換会

8日(水)
- 8:35　第四部
- 10:45　第五部
- 12:50　発表

ワークショップのテーマ

6年制薬学教育に望むこと

卒業後に取り組んでいきたいこと

薬学部6年制

二〇〇四年一月十九日　読売新聞

薬学部6年制を答申

中教審　薬剤師養成へ　薬科　分離

二〇〇三年八月二十日　読売新聞

薬学部6年制

実務能力をもとめ　薬剤師　臨床重視でプロ　養成

六年制移行による臨床重視の薬学部教育が、薬剤師医療人としてのプロ意識を植え付け、質の高い医療につながることを期待したい。

中央教育審議会「薬学教育の改善・充実（答申）」

- 医療技術や医薬品の創製・適用における科学技術の進歩、医薬分業の進展など、薬学をめぐる状況が大きく変化してきている中、
  薬剤師を目指す学生には、
  基礎的な知識・技術はもとより、
  豊かな人間性、高い倫理観、医療人としての教養、課題発見能力・問題解決能力、現場で通用する実践力などを身につけることが求められていること、

中央教育審議会「薬学教育の改善・充実（答申）」

- このため、各大学において教養教育を充実しつつ、モデル・コアカリキュラムに基づく教育を進めるとともに、特に臨床の現場において相当期間の実務実習を行うなど、実学としての医療薬学を十分に学ばせる必要があること、
- 各大学がモデル・コアカリキュラムに基づく教育に加えて、それぞれの個性・特色に応じたカリキュラムを編成することが必要であること、
- こうした様々な要請に応えるには、薬学教育の現状の修業年限（4年間）は薬剤師養成には十分な期間とは言えず、今後は、6年間の教育が必要であること、が提言されている。

6年制薬学教育を支える機関、団体等

文部科学省、厚生労働省
日本薬学会
全国薬科大学長・薬学部長会議、国公立大学薬学部長（科長・学長）会議
日本私立薬科大学協会
薬学共用試験センター、薬学教育評価機構
薬学教育協議会、日本薬剤師研修センター
日本薬剤師会、日本病院薬剤師会ほか

さて、
皆さんはどのような学生生活を
送ってきましたか？
6年制の薬学教育に
満足していますか？

6年制薬学教育プログラム

6年制薬学教育プログラム

学生生活も残り8ヶ月

ワークショップのテーマ

6年制薬学教育に望むこと、
卒業後に取り組んでいきたいこと

今日・明日は同期の仲間と共に
大学生活を振り返り
薬学教育について存分に
情報や意見を交換して下さい

ワークショップのルール

- お互いに名前を呼びましょう：○○さん、○○くん→名札は見える位置に
- タスクフォースの大学教員も「先生」でなく「○○さん」で呼んで下さい。
- 集合時間を守りましょう。
- 携帯電話の電源は切っておきましょう。

大学を代表する必要はありません。同期の学生との意見交換を積極的に楽しんで下さい。

では

第一部の開幕です